

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」。

中新田バツハホール
社会教育指導員

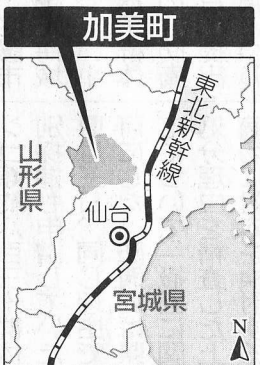


澁谷珠さん

宮城県加美町の中新田バツハホール

は、一九八一年に日本初の町営クラシック専用ホールとして建設されました。町は四年前に市民楽団「バツハホール管弦楽団」を設立。人口二万三千人余りの小さな町が管弦楽団を組織するのも日本初と思われれます。

楽団の設立は「音楽のまちづくり」を目指す猪股洋文町長の鶴の一声で始まりました。開館当時からパイプオルガン科やバイオリン



名の団員の八割が町外在住者で、他県から通う団員もいます。「皆で演奏できるのが楽しい、オーケストラで活動できるのがうれしい」と団員は声を弾ませます。

七月にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席トランペット奏者だったハンス・ペーター・シユー氏をソリストに迎え、第五回

良質な音楽で地域活性化

科などの音楽教室を主催し「いつかはオーケストラを…」と夢見ていましたが、設立の指示は青天のへきれきでした。楽団が今日活動できるのは、関係者の奔走と多くの方々のご支援のたまものです。

バツハホール管弦楽団は、団員の年齢が中学生から七十代まで幅広いことに特徴があります。五十

定期演奏会を開催することができました。現在は来年一、二月の公演に向けて練習しています。

地方と都市には生涯学習の機会に大きな格差があります。そのため、バツハホールは東北の人々に世界の音楽を届け、音楽を学ぶ環境をつくり、音楽愛好家の裾野を広げる役割を担ってきました。昨年度は「クラシック音楽による地域再生を推進した」と評価をいただき、地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞しました。

本年度はこれまで育んだ音楽資源を見直し改善するプロジェクトを進めています。また、良質な音楽資源を魅力あるコンテンツに育て、地域活性化につながる方法を検討していますので、ユニークなアイデアや事例をご存じの方はぜひ、お聞かせください。

人口23000人の町が運営するバツハホール管弦楽団 宮城県加美町で



※この連載は、NPO法人JKSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています。